



ラジオカロスのミキサー卓を前に(今年7月)

様々な出会いと学び。  
結局のところ、  
人生最大の財産とは？

# 私の放送人生

第13回  
元札幌テレビ放送 (STV)  
山崎 甲子男氏

私の放送人生は様々な人との出会いと人から学んだことが全てであり、この世に生をうけて傘寿を超えたが、いまだに放送と関わる幸せな人生の戯言を笑っていたら幸いである。

ひょうたんから駒の音楽人生  
札幌北高校では剣道部。



前列が3年生、左から2人目が筆者

警察道場の朝稽古にも通い猛練習。3年生の時、高体連の札幌地区大会で準優勝し、「しない競技」の出場資格を得て全道優勝した。「しない競技」とは戦後にGHQが全ての武道を禁止したことで生まれたスポーツ。袋竹

刀を使い、体当たりや発声禁止。1952年には剣道大会が復活したが、しない競技の大会は残っていた。秋田市で開催された全国大会では、関東や東北の強豪校と対戦して予選敗退。開会式の夜に秋田の郷土芸能「竿灯」を見て感動した記憶だけが鮮明だ。高歯の下駄に防具の入った信玄袋を背負って硬派ぶっていたが、実は音楽が大好きで、FENラジオで洋楽も聴いていた。毎年秋に「校内合唱コンクール」が開かれていた。3年8組は指揮する女性の合唱部員の言うことを聞かず、大半が真剣に練習に参加しなかった。私は「クラスの思い出を作るためにちゃんと練習しよう」と声高に言ってしまう、「じゃあ指揮はおまえがやれ」「やってやる」。売り言葉に買い言葉、全く音楽経験のない私が指揮者になった。結果は全学年27クラス中17位だった。

## 小沢征爾さんとの出会い

1浪して早稲田大学法学部に入學すると、迷わず混声合唱団に入団。合唱練習の音程やリズム、

読譜の教本であるコーリュブゲンで徹底的に鍛えられ、3年生の時に創立80周年を記念して小沢征爾さんの指揮で学内6つの合唱団と交響楽団で「第九」を歌った。



創立80周年フロイデコンサート(東京文化会館)

リハーサルで400人の合唱団員の1人が音を外したのを鋭く指摘された時の、身震いするような緊張感を今でも覚えている。一方で同期の団員4人でギターやウクレレを持ってコーラスバンドを結成。その名も「ピンキー山崎とスリーエッチーズ」というのだからふざけたもの。アメリカンポップスなどを自分たちでコーラスアレンジして大学祭や他大学

との打ち上げで披露した。



同志社大学との交流会でPinky Yamazaki & 3Hs。  
左から2人目が筆者

### 最初の仕事は送出MD

1964年STVに入社。最初の仕事はMD(マスターディレクター)。主調整室で番組を送出す



ベル&ハウエル70DRカメラ(望遠レンズ付き)を持つ筆者

るディレクターやCM素材の作成など放送現場の基礎を経て、26歳から報道部に所属し、16ミリフィルムのカメラを手に、ニュース取材やドキュメンタリー番組の制作に関わった。

### 「もはやこれまで！」の命拾い

日高山脈の雲の中で視界はゼロ。プロペラが不規則な回転をしていきなり止まった。1969年10月末、旧ソ連に拿捕抑留されていた漁船員が根室に帰港するのを取材するため、私とカメラマンは札幌丘珠(おかだま)空港から女満別(めまんべつ)空港にセスナ機で向かっていた。「アイシングになったようだ」。機長の声は震えていた。日高山脈を越えるために高度を上げ、キャブレターの入り口が凍結したというのだ。機長は叫んだ。

「機体の温度を上げるために降下します」

翼の先端を雲が凄スピードで流れていく。もはやこれまでと覚悟を決めた。どのくらいの時間だったか記憶はない。突然、雲の切れ目が見えた。山裾だった。

山頂付近なら激突していたであろう。突然エンジンがかかった。女満別空港に着陸したとたん、冷や汗がどつと出た。根室までタクシーを飛ばし、取材は間に合った。

### アイヌ民族アDOIさんとの交流

「阿寒湖畔に、木彫りと即興のギター演奏に優れたアイヌ青年がいる」という地方紙の記事を読んでもうしても取材したかった。青年の名はアDOI。



40年前のアDOIさん

※「ド」はアイヌ語の表記に用いられる仮名の一つ。発音はトウに近い。

世界中を放浪し、「民族」に目覚め、定住したばかり。楽譜

が読めないという独学のギターは激しく、また静かで哀しく、魂を揺さぶられた。私は1本のドキュメンタリー番組の取材がきっかけで、現在まで半世紀以上、交流を続けている。アDOIさんが主宰する「アイヌ詞曲舞踊団モシリ」は伝統的なアイヌ民族の歌舞を現代風にアレンジして演奏するグループ。これまで15枚のCDアルバム、DVDをリリースし、全国ツアーを実施してきた。



現在のアDOIさん

私も東京公演のメンバーとしてステージに出演したり、レコーディングでコーラスに参加した。共演した坂田明さんは、山下洋輔トリオで活躍したサクスの異才。同室で寝泊まりして酒を酌み交わし、熱い音楽談義をした。

2017年の札幌のモシリ公演は実行委員長として関わった。15年前からは屈斜路湖畔の山中でアトイさんが主宰する「絶滅種鎮魂祭」が開かれ、天空を焦がす焚火を囲み、人間が絶滅させた生きものたちの魂を鎮魂し、歌舞を奉納している。



レコーディング中のアトイさんと坂田明さん



モシリ東京公演の筆者

**赤い糸の主は小澤征爾さん**

1970年、私は釧路管内7つの記者クラブに所属するたった一人のSTVの記者兼カメラマンとなった。札幌ではそれほど気にならなかったサイレンと電話が、私の恐怖の的となった。冬の北洋での海難事故の悲惨さは酷いもの。遺体が収容されないこともあるが、十数名のガンクビ(顔写真)を入手しなければならない。釧路では他局や新聞社の若い記者たちと毎晩、シシヤモやメン(キンキヤキチジとも)を焼いてくれる居酒屋で酒を飲んだ。本州、四国から来たサンマ船団やサバ船団の漁師たちと外国人のようなお国訛りで酒を酌み交わ



絶滅種鎮魂祭(屈斜路湖畔の山中)

すこともあった。支局生活も3年目を迎えたころ、STV主催で小澤征爾さん指揮の新日本フィルの演奏会が釧路市で開かれた。そのチケットを買いに訪れた、笑顔の可愛い女性が、後にわが妻となる人。運命の出会いだった。「今購入した人の隣の席をお願いします」

**土下座までして再収録**

釧路の報道からテレビ制作ディレクターとなり、さまざまな番組の制作に関わった。NTV系列の深夜番組『11PM』は、基幹局が年に何本か交代で制作していた。当時の中継車に積んであるVTR機器は1台だけ。間違っ

てビデオテープを消したりしたら、すべてが終わりだった。私たちは函館・湯の川温泉の老舗ホテルで「ボインやでえ」の月亭可朝さん一行が芸者をあ

げて大宴会というシーンを収録。翌朝5時の収録前に、前夜のマザーテープを技術担当が消磁してしまった。私は前夜のホテルの社長宅にすつ飛んだ。

「社長もう1回収録させて下さい」  
ただただ平身低頭、生まれて初めて土下座をして頼み込んだ。しかも、料理や芸者衆のギャラも全く予算がないのだ。気つぷのいいホテルの社長は、まだ夜が明けたばかりなのに芸者衆を手配し、再び豪華な舟盛りの料理も用意してくれ、前代未聞のやり直し収録が始まった。朝っぱらからまるで夜の宴会のように振る舞う芸者衆も見事なら、狂言回しをした可朝さんの芸人根性もさすがだった。



11PMの宴会シーン。右から2人目が可朝さん

**ラジオ制作でレコーディング**

ラジオ制作に異動し、音楽とさらに深く関わるようになった。



河村通夫さん(右)の自宅で

シンガーソングライター河村通夫さんの番組担当となり、東京のCBSソニーのレコーディングに行かせてもらった。夜中に行われた男声コーラス4人のひとりが手配ミスで来なかった。私は楽譜を見て歌えると確信し、ソニーのディレクターに申し出た。いきなりスタジオに入り、初見でハモった。河村さんはその後「米ぬか健康法」ブームを巻き起こし、自然食のナチュラリストとして現在も『桃栗サンデー』を放送している。

松山千春さんの名曲『時のいたずら』を編曲したシンガーソングライター清須邦義さんの番組も思い出深い。

人の心に寄り添う感性が大好きだった。当時は千春さんが

大ブレイク中で、清須さんもプロデューサーとして全国ツアーに同行するので超多忙となり、私が東京に出張して録音することもあった。番組が終了して30年後にフェイスブックで再会した。



アレンジャー清須邦義さん(右)と

**ラジオ編成でコーラス隊結成**

ラジオ編成に異動となり、聴取率調査が最大の業務となったが、STVラジオはライバル局に負け続けていた。そこで、関口澄さん(後の専務)のもと、ラジオ局内の若手社員でラジオ活性化プロジェクトを組織し、徹底的に議論して報告書をまとめた。

土曜日8時間生放送の『日高晤郎ショー』や、平日4時間の局アナ4人による『ときめきワイド』

を編成し、タクシードライバーに聴いてもらおうと市内の全タクシー会社を回ってロゴの入ったティッシュボックスを配り、運転手にアンケート用紙を配って「最近乗った変な客」と「リクエスト曲」を書いてもらい放送した。



看板番組だった日高晤郎ショー

聴取率の調査期間が近づく、スタジオや廊下など社内中に決起を促す檄文を張り出し、手書きの墨字で「檄」としたためた。結果は7年ぶりの勝利。全員で涙の乾杯をした。



STVラジオの名物だったエール

祝勝会の名物となったのは「エール」だった。校友会に応援団出身者がいることを知り、所作を学んだから本物？風であった。

女性アナウンサーに音大出身者がいたので、ラジオのイメージソングを歌ってもらいシングルを放送した。ついには、早大グリーククラブや学生指揮者など合唱経験のあるラジオ編成部員も巻き込んで、開局30周年のイメージソングを男声コーラスで歌い、収録風景をマスコミに公開して話題作りを展開した。



ラジオ編成のコーラス隊「Vトルズ」

**幻となった遺言テープ**

「私に何かあったら聴いてくれ」。新千歳空港で1本のカセットテープを妻に手渡した。1986年1カ月間アメリカに出張した。中波ラジオの生き残りをテ

ーマに、全米17のラジオ局を視察した。信念に満ちたアメリカのラジオマンの取り組みに大いなる刺激を受けた。

さて、件のカセットテープだが、実は出発前、万が一を考えて、遺言テープを作っておいたのだった。深夜にワンマンスタジオで、空港口ビーや離陸の効果音をバックに、妻と息子に向けてありったけのメッセージを切々と連ねていた。無事に帰国して真っ先に聞くと、メカに弱い妻はラジオカセの消去ボタンを押してしまい「最後に気がついたが、ジェット機が離陸する音しか入っていないかった」。この時ばかりは、そそっかしい妻に感謝した。

### 民放労連のフォーラムに参加

ラジオの将来像を追求する民放労連の「90ラジオフォーラム『ラジオの未来をどう創るか』』という討論会が東京で開かれ、パネラーの指名を受けて参加した。「ラジオ編成部長が民放労連のフォーラムに参加する」と聞いて総務局長が渋い顔をしたが、「ラジオの活性化のためなら大い

に語ってみたい」と環境の変化に対応するSTVラジオの事例を紹介した。

### 東京のラジオ局に役員で出向

東京支社に転勤となり、支社長とラジオ部長を兼務、初めて営業を担当した。

3年後、日本テレビ系列となったRFラジオ日本(旧ラジオ関東)に異例の出向(常務・編成局長)となった。日本テレビにはラジオ局がないので「テレビの系列局のSTVから」ということになったらしい。社長は新聞社出身で、第一声は「田舎の放送局からやつてきて何ができるんだ」だった。とにかく人間関係に悩んだ。

### 田舎者のエピソードを二題

サッカーのJリーグが隆盛期を迎え、「Jリーグアウォーズ」(MVPなどの表彰式)に招待された。会場の東京ベイNKホールはサポーターでいっぱい。スポットライトを浴びて選手と関係者が入場。

「あれっ?なんか違う!」  
私だけ背広にネクタイ。そう

いえば招待状に「正装」と書いてあった。旧知のラジオ局の役員が「山崎さん、私はこの日のために貸衣装なんですよ」。彼はスマーとにタキシードを着こなして胸を張った。

「ラジオ日本賞セントライト記念」(中山競馬場)で、優勝馬の名前を呼び上げカップを渡すときに、表彰状に鉛筆で薄く書かれていた馬名を、自分が買っていた馬券の馬名と間違えそうになった記憶がある。何万人という大観衆のなかで冷や汗ものだった。

### 78歳まで教壇に立った

在職中から、札幌国際大学人文学部・社会学科の必修科目「社会情報論」を講義することになった。退職後はほかの大学、専門学校なども含めると1週間に10コマ以上も教えたこともあった。また、就職予備校のマスコミ就職講座で実践講義も行った。マスコミに就職した受講生が多数おり、現在は海外特派員や支局長となった教え子の活躍を見るのが楽しみである。最後に札幌商工会議所付属専門学校の教壇から降りたのは78歳だった。

### 男声合唱と「コミュニケーションFM

2005年からは、東京の政財界、文化人らが主体の「六本木男声合唱団倶楽部」の札幌公演に合わせて設立された「男声合唱団ススキーノ」に入団し、北海道随一の札幌コンサートホール「Kitara(キタラ)」で共演。2008年に東京や名古屋など5つの男声合唱団で、東京・サントリールホールにおいて「男だけの第九」(新日本フィル)を歌い、BS朝日で放送された。



セントライト記念の優勝カップを手渡す

2007年からはコミュニティFM「ラジオカロスサッポロ」で『男声合唱団ススキーノと共に』をスタートした。1年半後に70人の団



「男だけの第九」はBS朝日で放送



ススキーノのクリスマスディナーコンサート



入社同期の巻山アナ(左)

員が出演し終わると、色々なジャンルの音楽関係者に出演してもらおうようになった。北海道民放の会で知り合った他局の元社長や役員、プロデューサー、アナウンサーなど、850人以上のゲストに出演してもらっている。中にはその後、亡くなった人を追悼して再放送したり、お通夜や追悼ライブでラジオの声を流したこともある。去年11月に82歳で亡くなったSTV入社同期の巻山 晃アナウンサーは、52年間のアナ生活のうち29年間は朝3時に起床するラジオの朝番組をやり遂げて、幅広く道民から親しまれた。私は、再放送した追悼番組の同録CDを携えて、同期の仲間と巻山さん宅を訪れて仏前に供えた。

神さんの都合が悪い時には私が隊員の肉声を聞いたが、度々砂嵐で収録が中断されて悩まされた。録音は2年間で105回、



衛星電話番組の記事(東京新聞)

**衛星電話でイラクと結ぶ放送**  
2004年、陸上自衛隊員がイラクのサマワに復興支援で派遣されたとき、防衛大学中退の米穀店主という異色の経歴をもつパーソナリティ・神 慶興(じん・よしおき)さんの発案で、衛星電話を通じて情報番組を放送した。復興支援や日常生活、イラク人との交流などを、現地の隊員に直接インタビューする企画内容が話題となり、道内10局のほか全国30局以上がネット配信で放送し、夕刊紙「札幌タイムス」は全文を掲載してくれた。

**台湾の友人とコーラス**  
「ススキーノ」ではこれまで2度の台湾演奏旅行を実施してきたが、2度目には「麻豆愛楽(マー トウ アイ ラク)合唱団」のシャロンさん(女性)と、演奏会の打ち上げでABBA(アバ)の「アイ・ラブ・ア・ドリーム」をコーラスで歌った。その練習方法は、私と団員の高橋基さんがコーラスした映



夫婦でミッキー安川さんに可愛がられた

出演した隊員は123人に出向した。また、ラジオ日本に出向して親しくなった、歯に衣着せぬパーソナリティ・ミッキー安川さんの『ミッキー安川の雑オロジー』を、ISDN(インターネット回線)を使ってラジオカロスで2004年から4年間放送した。

像をSNSのメッセンジャーで台湾に送り、シャロンさんがそれにメロディをかぶせて返信、というもの。本番当日はギターを手配してもらって、リハーサルなしで、いきなり日台ユニットでコーラスし、会場は大盛り上がりだった。



台湾でいきなりコーラス

### 現在も放送中のアイヌ語講座

私に関わったSTVの番組で現在も放送されているのは、1987年に始まった我が国初のラジオのアイヌ語講座『イランカラプテ』(お元氣ですか、の意)である。平取町(びらとりちよう)二風谷(にぶたに)アイヌ文化資料館長・萱野茂さんの自宅に行つて講師をお願いした。後にアイヌ民族初の参議院議員となる萱

野さんは、選挙に立候補するまで講師を続け、以後もアイヌ語研究者などに引き継がれ、現在まで36年間続いている。

コミュニティFMはわずかな出力しかないが、PCのインターネットや携帯電話のアプリ、YouTubeなどでも見聞きできる、ナローキャストでグローバルなメディアである。私にはフェイスブック友達が1500人以上おり、放送内容を文章にまとめて、私のフェイスブックのページや「BCラジオ広場」「ラジオ好きの人々の部屋」「声の会」などに毎週投稿しており、全国からいろいろな反響があつて、励みとなっている。

### 民放マン3世代への期待

一人息子は本州の民放基幹局の部長、お嫁さんはライバル局のアナウンサー。たまに家族が札幌に帰省すると、親子で放送業界の現況を話すのが楽しみである。  
小6の娘(孫)は小学校の聖歌隊で歌つてMC

をやつており、小3の男子はサッカーとヒップホップのダンス教室で元気に飛び回っている。もしかしたら、3代目の放送マンが誕生するかもしれない。まあ、天国からその様子を見守るとしよう。

結局は人生最大の財産は家族と友人ではないかな、と思う。特に音楽とラジオを通じての友人は、人間の豊かさを知り、自身の世界を広げるきっかけになった。今週も「男声合唱団ススキー」の20周年記念演奏会に向けた練習がある。

そして、雨の日も吹雪の日も、毎週火曜日の夜「ラジオカロス」の生放送に向かう私を車で送りつけてくれる妻の、心からの協力なしには、ここまで続けられなかったと思う。感謝、感謝である。



去年金婚式を迎えた妻と

### 山崎 甲子男 略歴

(やまざき・きねお)

1964年4月

札幌テレビ放送株式会社

(STV)入社

業務部進行MD、報道部放送

記者、釧路放送局記者、テレビ制作部、ラジオ制作部、ラ

ジオ編成部

1990年7月

ラジオ局編成部長

1993年7月

東京支社 次長・ラジオ部長

1996年6月

RFラジオ日本 常務取締役

編成局長

1998年6月

STVに復職。SMP事業推進

室長、編成局次長など

1999年11月早期退職

在職中から札幌国際大学で、

退職してから酪農学園大学、

札幌ビジネスアカデミー、札幌商

工会議所付属専門学校など

で2019年まで教壇に立った

2000年10月

ラジオカロスサップ取締役を

経て、現在、エグゼクティブ

ロヂューサー兼パーソナリティ